

秩父クリーンセンター・ 秩父環境衛生センターからの お知らせ

(ごみの受け入れを一時休止いたします。)

秩父クリーンセンター・秩父環境衛生センターでは、ごみの受入業務に使用している計量器の検査を行うため、下記のとおり、ごみの受け入れを一時休止させていただきます。ご不便をおかけいたしますが、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

受入休止期日 10月20日(水)

受入休止場所・時間 秩父クリーンセンター
(午前9時～午後1時)
秩父環境衛生センター
(午後1時～2時)

問合せ 秩父クリーンセンター (可燃ごみ) ☎24-8050
秩父環境衛生センター (不燃ごみ) ☎23-8921

家電4品目の処分について

家電4品目を処分する場合には、「家電リサイクル法」に基づく処分をお願いします。処分にはリサイクル料金と、収集運搬を依頼した場合には別途収集運搬料金がかかります。

対象品目

- 1 テレビ (ブラウン管、液晶、プラズマ)
- 2 冷蔵庫、冷凍庫
- 3 洗濯機、衣類乾燥機
- 4 エアコン

処分方法

- 1 購入した家電販売店に依頼する。
- 2 指定引取場所「秩父回収資源株式会社」へ持ち込む。皆野町大字大淵143-3 ☎62-4636
- 3 収集運搬許可業者へ収集運搬を依頼する。「家電リサイクル券」を発券できる業者としない業者がありますので、事前に秩父環境衛生センターにお問い合わせください。

問合せ 秩父環境衛生センター ☎23-8921

ません。なぜなら、祖父は自宅介護だったので一日中、「おばあちゃん、おばあちゃん。」とベットの上がら祖母を呼んでいました。祖母はよく「頭がパニックになって、おかしくなりそうだ。」と言っていました。このあたりから、僕と父の区別がつかなくなっていました。この時の僕は、そんな祖母の変化を受け入れられず、さびしい思いで一杯でした。

そんなこともあって、父が祖父の介護をして、母がパートに出ることになりました。祖母の生活は大きく変わり、逆に認知症はどんどん進んでしまいました。両親が、よかれと思っただけで、母は色々な所に出掛けた。夜中には、自分の洋服をダンボールに入れたり出したりしていました。そんな祖母を母が根気よく面倒を見ていました。僕の知っている祖母ではなく幼さゆえに逆にこわいと感じていました。

そんな行動が、祖母の体を弱らせてしまいとうとう入院する日が来ました。僕は、正直ホッとした部分もありましたが、とてもさびしかったのをおぼえています。

ベッドの上の祖母は、表情も暗く食欲もないようでしたが、

僕が面会に行くと、いろいろな人の顔や名前を忘れてしまっている。とてもうれしそうに顔を見せられました。僕のことをおぼえていてくれていたようで、とてもうれしかったです。

数ヶ月がたち、祖母は食事を取れなくなっていました。「胃ろう」と言う手術をすると聞きました。胃に穴を開けて、その穴にチューブを差して、直接栄養剤を体内に入れるのだそうです。

その説明を医師から受けた母は、「もうおばあちゃんも、八十でかわいそうだからやめて下さい。」と言ったそうです。すると医師が「おばあちゃんを殺す気ですか。」と言ったそうです。その時は、おばあちゃん自分のお腹を切られると言うことを、どう思っているのだろうと感じました。

いくら認知症で、ちゃんとした判断ができないからと言って、人としてどちらかを選ぶ権利があってもいいのではないかと思いました。

結局、家族で話しあって手術を数週間待ってもらい、祖母の体調がよい時に父が「おばあちゃん、ご飯も口から食べられなくなつたから、少し痛いかもしれないけど、栄養を取るチューブを付ける手術をしてみるかい。」と耳元で聞いてみました。でも、反応はなかったと父は悲しそうでした。

祖母は、医師の説得もあって手術をしたけれど、その後、すぐに亡くなりました。

僕は、祖母のことは通して、高齢者が病気になる時、人間として生きて行く権利、「人権」はどのようにして守って行けばいいのか深く考えました。自分の生き方を自分で決められなかった祖母を思うと悲しくなります。今はまだ、僕自身自分のことを決める意志がはっきりとありませんが、僕自身がこのような日を迎える前に何か、ちゃんとしたものに、「このようにして下さい。」と意思表示をして、一生を後悔しないように過ごしていきたいと強く思いました。

こういうことに目を向けるきっかけをくれた祖母に、今では感謝しています。

